

令和6年度
第2回朝日地域振興懇談会
会議録（概要）

期日：令和7年3月17日（月）

場所：朝日中央コミュニティセンター 多目的研修室

令和6年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時：令和7年3月17日（月） 18時30分から20時30分まで
- 会 場：朝日中央コミュニティセンター 多目的研修室
- 出席委員：齋藤良弘、難波金一、進藤 享、伊藤ます子、佐藤 清、大瀧博勝、渡部 巖、
清野大輔、清野吉喜、難波志津香、今野めぐみ、伊藤比呂貴、伊藤由紀子 計13名
- 欠席委員：宮崎ちよ、難波一之
- 市側出席職員
 - 【朝日庁舎】支所長 鶴見美由紀、総務企画課長 齋藤健一、市民福祉課長 佐藤智井、
産業建設課長 清野たえ、総務企画課 課長補佐 加藤恵里、
地域まちづくり企画調整専門員 齋藤富喜、主事 近野辰夢
 - 【本 所】地域振興課 主査 渡部久美子 計8名

一次 第一

1. 開 会

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見支所長あいさつ

3. 報 告

- （1）令和6年度第1回朝日地域振興懇談会での意見への対応について
- （2）朝日地域における公共交通の再編について
- （3）雪に関するアンケート調査の結果について

4. 懇 談

- （1）第2次鶴岡市総合計画後期計画における朝日地域の施策の成果指標（KPI）の検証について
- （2）令和7年度 朝日庁舎主要事業について
- （3）その他

5. そ の 他

6. 閉 会

1. 開 会 18時30分（進行 総務企画課長）

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見支所長あいさつ

3. 報 告

（1）令和6年度第1回朝日地域振興懇談会での意見への対応について

説明：総務企画課長

（2）朝日地域における公共交通の再編について

説明：総務企画課長

（3）雪に関するアンケート調査の結果について

説明：総務企画課 地域まちづくり企画調整専門員 齋藤

4. 懇 談

（1）第2次鶴岡市総合計画後期計画における朝日地域の施策の成果指標（KPI）の検証について

説明：総務企画課長、産業建設課長

（2）令和7年度 朝日庁舎主要事業について

説明：支所長、庁舎各課長

【委員】

公共交通の再編に関連して、下村口のバス停留所で、あさひバスから庄内交通の落合線に乗り換えることになるが、下村口のバス停留所に待合所などの整備は考えているのか。

【総務企画課長】

あさひバスは、主に高校生の利用が想定され、下村口のバス停留所で庄内交通の落合線に乗り換える計画である。住民説明会でも同様の質問があったが、現時点では待合所などの設置は難しいと考えている。その代替案として、例えば落合線の路線バスが来るまで、乗ってきた「あさひバス」の車内で待つていただくような方法を検討している。

【委員】

資料1（令和6年度第1回朝日地域振興懇談会での意見への対応について）の消火栓ホースの質問に対する回答について、自主防災会で点検するとの記載になっているが、一般の方は消火栓を開けられないはずである。このような点検は、やはり消防関係で行ってもらいたい。消防署朝日分署で確認すれば、すぐ判断でき、そのまま修理なり更新ができる。素人が確認しても判断できないと考える。

【総務企画課長】

いただいたご意見は消防署朝日分署に伝えまして、対応を検討させていただく。

【委員】

7月1日から運行が開始されるデマンドカーを利用する際、予約時に LINE など使えないのか。ファックスや電話で予約の連絡をするとの説明だったが、これからは LINE 予約などに移行していくべきだと考える。

【総務企画課長】

住民説明会でも同様のご意見をいただいた。LINE システム導入費用の課題もあり、運行を受託する交通事業者が決定したら相談していきたい。鶴岡市内でも同じようにデマンドカーを運行している地域があるので、経費節減のために他地域と同じシステムを導入できないか本所担当課とも相談したい。

【委員】

資料6（令和7年度 朝日庁舎主要事業）の4ページのNo.26について、このキオスク端末の設置場所は窓口の中になるのか。

【市民福祉課長】

キオスク端末の設置予定場所は、資料7（朝日地域中心部の再整備）の3ページ左側、ロビー、上部吹抜と記載された破線で囲まれた右下あたりと考えている。この場所であれば事務室からも確認ができる。お一人で操作できる方はセルフサービスでマイナンバーカード利用により証明書の交付を受けることができ、また、お声掛けをいただければ庁舎職員がサポートさせていただき操作を一緒に行う予定である。

【委員】

コンビニのように、ATM と並んで多目的スペースにあれば便利ではないか。

【市民福祉課長】

確かに多目的スペースにあれば便利であり、ATM と並べて設置することも検討したが、キオスク端末は市民福祉課で開庁時間内の管理を要するという制約がある。これは本所の市民課も同じ扱いとなっている。そのため、供用開始の時点ではロビー設置によりスタートしたいと考えている。

【委員】

消火栓のホースが地域でなかなか整備できないことは長年の課題である。関連して、消防団の消火ホースと自主防災組織の消火ホースの区分はどうなっているのか。

【総務企画課長】

消防団の消火ホースは、消防ポンプ庫内に小型ポンプや小型自動車と一緒に配備され、クルクル巻かれているホースである。消防団が訓練や消火出動の際に使うホースで消防団の管理となる。一方、自主防災組織の消火ホースは、集落の中にある消火栓ボックスの中に入っているものであり、この消火ホースは集落の管理となる。

【委員】

一番問題になっているのは自主防災組織の消火ホースや消火栓ボックスの整備だと考える。先ほど説明があったコミュニティ助成事業の助成率は何分の1なのか。

【総務企画課長】

助成金額は1申請あたりの上限が200万円で、補助率は10分の10である。朝日地域では、大針地区が今年度に活用し、名川地区でも申請の検討をしている。

【委員】

100%の助成で200万円までの事業が可能であれば、申請すればほとんど実現できる感じなのか。

【総務企画課長】

鶴岡市内で採択件数に限りがあることから順番待ちになっていると聞いている。コミュニティ助成事業を活用して防災資機材等の整備をお考えであれば、早めに相談をいただきたい。

【支所長】

市全体では年4〜5件採択されている。

【産業建設課長】

鶴岡市に割り当てられる件数は徐々に減っており、常時10数件の順番待ちとなっている。

このような状況ではあるが、消火ホースなどの防災資機材等の購入を希望する場合は手を挙げていただき、採択まで待ってもらうことになる。採択まで数年かかるケースもあるが、100%助成という非常に有利な制度であり、多くの自主防災組織で活用されている。

【委員】

自主防災組織の消火ホースについては前々からの課題であった。朝日地域のような山村で集落が散在している状況のなか、消火栓ボックスの中に消火ホースがなかったり、破れていたりにしていた。購入するにしても高額で自治会等では整備できずにいたが、このような助成制度があることが分かった。

【委員】

資料6の7ページ、No55とNo61について、産直あさひ・グーがふっくらに移転することが決定したかのような記載になっていると思われるが、一方で、産直あさひ・グーの故障修繕、強度調査を行うとの説明であった。これまでの経過も含め、この整合性について確認したい。

【産業建設課長】

産直あさひ・グーの指定管理が令和7年3月31日をもって終了するため、市では、指定管理者であるあさひ村直売施設管理運営組合と今後についての協議を行い、指定管理をもう3年の延長することで進めている。一方で、産直施設の建物自体がかなり老朽化し、3年間の保証ができないことも協議した。そのため、産直施設そのものの体力度を調査することを目的に、その調査費を令和7年度予算に計上し

ているものである。

続いて、No61 については資料 9（朝日地域拠点形成事業）でも説明したが、「移転を検討する」との表現になっているが、現在ふっくらへの移転も含めた協議を始めているところである。移転する場合を視野に入れ、現在それぞれの施設を利用している方々や隣接する「ぼんぼ」なども含め、エリア一帯を皆さんが楽しく集える場所、賑わいのある場所にするための一体的利用について、話し合いの場を設けるための予算を計上したものである。

【委員】

産直あさひ・グーは管理指定を 3 か年延長するとの説明であるが、No61 の事業はいつまでの期限で結論を出す見込みか。

【産業建設課長】

令和 7 年度はエリアの基本構想を作ることを目的に 61 万円を計上した。産直あさひ・グーの指定管理の延長も 3 年の期限であるため、その終期は合わせたいと考えている。

【委員】

資料 6、No.17 のタイ「子どもの村学園」国際交流事業について、この派遣事業は非常に長い歴史がある。一方で、市町村合併から 20 年にもなる状況から、全部本所の業務として移管してはどうか。本所には国際交流の主管課があることから、そこで幅広く対応した方が良いと考える。朝日にもこれまで交流したノウハウを持つ人が多くいるため、そのような方も活用しながら、本所で一本化して、もっと幅広く市民全体に呼びかけるような方法をとった方が、より充実した事業となるのではないかと。

【総務企画課長】

今年度のタイの国際交流事業は、明日（3/18）出発を予定している。派遣される生徒 8 人のうち、朝日地域の生徒は高校生 1 人で、ほか 7 人は鶴岡市内からの応募である。派遣する生徒は朝日地域に限らず鶴岡市全体から募集し、本所の国際交流担当と連携して実施している。ご意見を踏まえ、引き続き鶴岡市全体で取り組んでいく。

【委員】

資料 1 の 2 ページ目に記載されたグラフの説明で、令和 7 年 2 月における朝日地域の人口は 3,287 人であり、このグラフの推計値より減少傾向が大きいことが分かった。このような状況のなか、資料 4（総合計画後期計画 評価調書）の 1 ページ目に「転出による世帯減少率」があるが、令和 6 年度の転出世帯数や転入世帯数は把握しているか。

また、朝日地域から転出する理由については、雪の関係など様々な要因があると思うが、これまで転出する理由について調査したことはあるのか。転出する理由を把握することで、世帯減少率を減少させる対策を講じることができると考える。あわせて、今後の傾向を推察することも可能である。転出する理由について対策することは様々な事業に関わってくるため、転出する理由の実態調査を実施した方が良いと考える。

【市民福祉課長】

転出による世帯減少率は施策の成果指標（KPI）の一つであり、目標値に近づくようにしなければならない。そのため、転出する原因は重要な要素と考える。

現在、窓口で転入者への転入者アンケートの協力をお願いしているが、転出については今のところそのような取組は行っていない。ただし、朝日地域においては、転出理由を分析することは非常に大切なことと捉えており、支障のない範囲でどのような取組が転出者に対して協力いただけるか、検討していきたい。

続いて、令和6年度の転出状況等については、現在、人の動きが一番盛んな時期であり、世帯全員異動の場合と、世帯の一部が転出・転入する場合があります、まだ確定していない状況にある。なお、令和5年度の特徴としては、高齢者の独居世帯、一人暮らしの方が亡くなるケースが非常に多かった。令和6年度については、今のところ前年度より少ない状況にある。

令和5年度は独居世帯の死亡が例年より多かったことから、世帯数の減に直結したものと捉えている。

【総務企画課長】

朝日地域から転出する要因として、これまでの会議でのご意見や聞き取りなどから、やはり雪が多いことが一因として挙げられる。雪対策は朝日地域にとって重要な課題と認識しており、そのために、先ほど報告した雪に関するアンケートを実施し、実際の雪下ろしの回数や、業者に屋根の雪下ろしを委託した際の経費など、具体的な数値を把握させていただいた。今回のアンケート結果を活用し、朝日地域独自の支援策ができるかどうかも含めて検討していきたい。

【委員】

令和5年度に朝日地域への転入が13世帯もあったことが意外であり、驚いている。このことは、庁舎を含め様々な努力が実った結果だと思う。

【委員】

転出の件に関連して、朝日地域から転出したが家自体は残り、取り壊す予定もない場合、例えば自治会の消防費の徴収はどうしたらよいか、地域の消防団員も悩んでいるため、庁舎の考えをお聞きしたい。

【総務企画課長】

同様の相談を他の自治会長からもいただいた。本人は鶴岡に住んでいるが、家や車庫、蔵などが朝日にある場合、消防費はどのようにしたらよいか、といった相談であった。その際に紹介した事例は、建物だけの方は、実際に住んでいる方が支払う消防費の半額の負担をお願いしているものである。

なお、これは一例であり、あくまでも自治会での取り決め事項になる。

【委員】

実態は、消防団員も鶴岡まで行って集金するのが大変なため徴収していないようである。転出者から自発的な協力が得られるよう、市からの指導などがあれば、消防団員も活動しやすくなるのではないかな。

【総務企画課長】

自治会の取り決め事項に関して市からの指導はできないが、集落支援員が各集落を回って、それぞれの自治会の取組を聞き取りしている。ほかの自治会の事例を紹介しながら、一緒に話し合うことはでき

るので、相談いただきたい。

【会長】

先ほど、雪のアンケートの結果を今後の施策に活かしていきたいとの説明があった。大変期待をしたい。玄関前の除排雪や、屋根の雪おろし支援など、要望しても意見を言っても、市全体の基準に合わせられ、実現しない。本当に困っている人に手が届いていない実態を感じている。この雪のアンケートを基に、朝日独自の施策や市全体として雪が多い地域にもっと手を差し伸べる施策を講じるよう、本所でも、庁舎でも、働きかけていただきたい。

特に、資料 6 のNo8（朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業）については、予算がずっと同額ではなかったかと認識している。これまでも予算が不足だと意見しているはずであり、朝日中央地区自治振興会では、予算が足りない部分をコミセン独自の事業として実施している状況である。このことについての検討を含め、本当は令和 7 年度からアンケートに基づいた様々な施策を検討し実施していただきたいが、令和 8 年度からでも結構なので、本所とも十分に検討していただき、朝日の実態を訴え、新たな雪対策をぜひ実現していただきたい。

【総務企画課長】

既存の制度を見直すことは正直なかなか難しい。やはり、朝日独自の事業や別の支援策を考えることが必要だと感じている。新しい事業を考える場合には、実状を示すデータや費用対効果が必要なため、そのベースとなるのが今回の雪のアンケート結果である。

令和 7 年度の予算はすでに固まっており、令和 8 年度以降の新たな雪対策事業の実施が可能かどうかも含めて検討していきたい。

【委員】

二点お願いしたい。

一つ目は、社会情勢も変化しているなか、高齢化への対応として窓口のデジタル化を推進していこうということで、非常にいいことだと思われる。これに伴い、市民福祉課の窓口のデジタル化が中心だと考えるが、本所との関わりのなかで届出で済むような業務もデジタル化していただきたい。このような検討をお願いし、デジタル化の幅を広げ、単なる届出で済むような手続きは部署が違っててもできるような形をお願いしたい。

二つ目として、朝日地域の住民は、生活するための働き場として 90%以上の方が朝日地域以外で働いている。そのため、住民の働く場が一体どうなっていくのか、例えば、工場誘致について新聞等でも報道されているが、その説明をしていただきたい。朝日地域のことでないにしても、働く場は生活と密接な関係があるため、本所所管ではありながらも、そのような説明をしていただきたい。働き場について、市全体の共通するものについては、次回からぜひ紹介をお願いしたい。

【支所長】

今回は、市全体の新産業団地整備に関する資料などを用意していないため、新年度の懇談会で紹介させていただく。

【市民福祉課長】

朝日庁舎では現在、実証事業として何件かデジタル化に取り組んでいる。今のところ、実際に南出張所や朝日庁舎へ来庁いただいたうえで行う手続き簡略化のデジタル化を進めているが、将来的にスマホを使ったLINE申請、マイナポータル利用による手続きを更に促進する準備を行っている。

【委員】

健康の里ふつくと、ぼんぼ、更に産直あさひ・グーが一緒になるかもしれないとの構想について説明があり、面白い勝負に出たなと感じた。産直あさひ・グーの立地は非常に良く、車通りも多いため、本当なら「ぼんぼ」が落合に移転できればと思うが、温泉の都合で難しい。また、3つの施設を1か所に集約することにより来場者が飛躍的に増えるかも難しいと感じる。あわせて、産直あさひ・グーの跡地がファミリーマートの2号店になるのか、どうなるのか、多少気になっている。

関連して、資料8（かたくり温泉ぼんぼ関連事業）の裏面に健康の里ふつくらにおけるこどもの遊び場整備として、トルネード状のすべり台のイメージ写真がある。個人的な感想として、このような遊具は不具合などにより数年後には掃除もされず、廃れていく未来が見える。実際、保育園、小学校、中学校いづれからも遠く、親が運転する車で温泉に来て、ここで遊んでいくのかどうか。よほど遊ぶものが魅力的なものでなければ、この遊び場はうまく機能しないのではないか。

逆に、ただのアイディアではあるが、とんでもなくダラダラできる温泉施設にしてはどうか。例えば暗室があって、ネットも完全に遮断して電話もかかってこない。そのうえ漫画がやたら置いてある空間はどうか。究極の憩いの場で、朝日の皆さんが雪下ろしで疲れた腰を癒せるようなマッサージチェアがたくさん置いてあり、横になってゴロゴロ寝られるような場所もある。「お父さん、お昼に温泉に行っただけ夕方まで帰ってこなかったね」みたいな感じで滞在時間が長くなるような、R天国ではないが、極楽天国のような感じに振り切ったコンセプトの施設の方が、地元の方々以外にもお客さんが来ると思われる。そうすることにより、産直が活き、産直のご馳走やご飯が活き、温泉が活きるのではないかな。

【産業建設課長】

斬新な意見であり、参考にさせていただきたい。

【委員】

管理されていない空き家については屋根の雪下ろしが適切に行われず、倒壊につながるおそれがある。落合地区にある空き家は屋根が抜け、隣接する方が不安を感じていると思われる。空き家対策について、落合地区のように家屋が連担しているところは非常に危険がある喫緊の問題と考える。今後の空き家対策についてどのように考えているのかお聞きしたい。

【総務企画課長】

空き家については朝日地域だけでなく、鶴岡市全体でも大きな課題となっている。来年度は空き家の実態調査が予定されており、危険な空き家が何棟あるのか、どのような状態なのか、ランク付けする調査を行う。現在は、空き家の解体費用に対する補助金もあるが、今後、実態を調査する中で、対応策も一緒に検討してこととなる。

【委員】

危険な空き家は喫緊の問題であり、すぐにでも対応しなければならないと思うので、よろしく願い

したい。

【総務企画課長】

危険な空き家があれば早めに連絡をいただきたい。状況により、市と消防署朝日分署が連携して対応させていただく。

【会長】

朝日庁舎の再整備に関連して、庁舎の機能も再編されとの話を聞いた。この場で説明できることがあればお願いしたい。庁舎の機能再編は住民にも影響があることが予想されるため、できれば地域住民の意見を聞き、合意を得ながら進めていただきたいかった。

【支所長】

新しい朝日庁舎の改築は順調に進んでいる。それに伴い庁舎内の組織の見直しも行われているが、発表は後日となる。

なお、現在庁舎で取り扱っている業務は変わりなく行う予定である。課の名称や現在の3課の業務分担は変更になるかもしれないが、できる限り住民の皆さんにはご不便をかけないように、周知に努めてまいりたい。

(3) その他 特になし

5. そ の 他 特になし

6. 閉 会

(終了 20時30分)